

【共催】さんぽの会（おきなわ「非行」と向き合う親たちの会）

「薬物・アルコール依存症」 回復は可能です！



適度な飲酒ならば、あまり問題はありませんが、摂取量が徐々に増えていくと、脳や身体を蝕み、脳の萎縮をもたらします。

依存症の場合、脳の神経回路が支配され、自分の意思ではコントロールできなくなるため、他者の力を借りることや医療機関につながることは大事なことです。

依存症の問題は、「傷つき体験」から生じた、寂しさや怒りをアルコールや薬物などで紛らわし、自分自身を傷つけてしまう依存症者だけの問題ではありません。

生きづらさを抱えながら生きている現代の私たち自身の課題でもあるのです。

今回は、『下手くそやけどなんとか生きてるねん。』（現代書館、2019年）の著者であり、薬物・アルコール依存症から回復した当事者の渡邊洋次郎さんに、なぜ薬物やアルコール依存症になったのか、どのように克服してきたのか、「リカバリハウスいちご」職員としての現在の活動について語っていただきます。

日時：12月7日（木）午前10時～12時

わたなべ ようじろう

講師：渡邊 洋次郎 さん（薬物・アルコール依存症からの回復当事者）

会場：なは女性センター学習室（なは市民協働プラザ1階）

対象者：関心のある方 / 定員：36人（事前申込先着順）

*市在住・在勤・在学の方は手話通訳が利用できます。11月30日（木）までにお申し込みください。
なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

◆講師プロフィール（わたなべ ようじろう）さん

中学の頃に薬物中毒になり、在学中に何度か警察に捕まり、中学卒業後すぐに鑑別所入所。4度の鑑別所入所を経て16歳の終わりから18歳になるまでの1年間で中等長期少年院で過ごす。20歳から精神科病院への入退院が始まり、30歳までの10年間で計48回の精神科病院入院。30歳から3年間の刑務所服役。

現在、刑務所を出て酒や薬が止まり14年4か月。自助グループのミーティングへ行ったり、就労支援などを受け、リカバリハウスいちごで、2017年12月から常勤スタッフとして働き、2018年3月介護福祉士受験も無事に合格。2020年3月に通信制高校を卒業。著書に『下手くそやけどなんとか生きてるねん。薬物・アルコール依存症からのリカバリー』（現代書館2019年）『渡邊洋次郎対談集 弱さでつながり社会を変える』（現代書館2023年11月）



講座のお申込み
は、QRコード
からもできます。



お問合せ＆講座のお申込み ⇒ なは女性センター窓口でも受付しています。受講無料です。
なは女性センター TEL.098-951-3203 / FAX.098-951-3204